

	代表者 確認印		経 理 責任者	中林寛暁
報 告 者	①根津年夫、②中林寛暁			
期 間	令和7年10月9日～10月10日			
調 査 (出 張)	①秋田県仙北市 グリーンツーリズムの取組について			
事 項 及 び	②秋田県仙北市 田沢湖高原雪まつりについて			
訪 問 先	③			
参 加 者	根津年夫 大嶋由紀子 中林寛暁			
①	【視察研修（出張）の目的】 近年、自然を満喫し都会での生活とは異なる非日常を楽しむ形としてグリーンツーリズムが注目を集めています。当市のグリーンツーリズムの促進の参考にするため、インバウンドグリーンツーリズムの先進地である秋田県仙北市の取組について伺います。			
	【市政との関連性】 『グリーンツーリズムによる交流人口拡大への取組』 ・インバウンド観光客への対応・対策について ・観光客誘致について			
	【視察研修（出張）の概要】 『仙北市のグリーンツーリズムの取組について』 日 時：10月9日（木）14：00～15：00 場 所：仙北市役所角館庁舎内会議室 対応者：仙北市観光文化スポーツ部 部 長 次 長 交流デザイン課 課 長 観光課 課長補佐			

	1. 仙北市のグリーンツーリズムの成り立ちについて ① ステップ1（昭和40年～）●設立に向けてのきっかけ ・わらび座（演劇集団）が修学旅行の受け入れを開始、学校からの要望で周辺農家が農業体験を受入（昭和45年頃）。 ・秋田国体開催時に宿泊施設として農家が民宿を開業。 ② ステップ2（平成7年～）●農家民宿が次々に開業 ③ ステップ3（平成17年～）●グリーンツーリズム推進組織の設立 ・平成20年に市・JA・観光協会などからなる仙北市農山村体験推進協議会を設立し、受入環境の整備、体験メニューの充実を実施。 ・市における体制の強化。教育旅行とグリーンツーリズムの担当部署を設置。 ④ ステップ4（平成24年～）●国際教育旅行の受入 ・平成24年、台湾を中心に教育旅行の受入開始。 ・平成28年、「ディスカバー農村漁村の宝」フレンドシップ賞受賞 ⑤ ステップ5（平成30年～）●協議会の新たなスタート ・平成30年国家戦略特区を活用して、国内旅行業務取扱管理者及び地域限定の旅行業を取得。 ・令和元年、「ディスカバー農村漁村の宝」記念賞受賞 ・令和6年、ジャパン・ツーリズム・アワード 審査委員特別賞受賞 2. （一社）仙北市農山村体験推進協議会の運営体制と取組内容について ① 運営体制 ・地域限定の旅行業者としてワンストップサービスの体制を構築。 ・国内外の個人旅行観光客への対応と所得向上を目指し、会員それぞれが積極的に行政機関が実施する事業を活用し、Wi-Fi環境等の受け入れ態勢整備や国内外への誘致活動を実施。 ・タイの大手旅行会社をはじめ、様々な国の現地手配業務を行い、インバウンド受入対応強化に向けた取組を推進。 ② 取組み内容 ・宿泊：乳頭温泉郷など全国的に有名な温泉宿があり、田沢湖高原地域には大型ホテルが点在。また、農山村体験をはじめとしたグリーンツーリズムを提供している農家民宿等の宿泊施設が市内全域に40軒。 ・誘客コンテンツ：田沢湖や秋田駒ヶ岳等の美しい自然を活かしたカヤックやサップ等のアクティビティ、角館の武家屋敷通りでの着物着付け体験等を実施。 ・特徴的な取組み：国際交流団体の受入に加え、FITの受入数が急激に伸びてグリーンツーリズムの宿の外国人宿泊数は年間4,000名（令和6年）を超える。
--	--

・観光消費額の向上と自発的な取組につなげる様々な事業を国の交付金などを活用して実施。

3. 仙北市の交流人口拡大への取組み

① インバウンド観光客への対応・対策について

- ・「グリーンツーリズムの先進地である」という強みを活かした施策の展開
→ 農泊インバウンド、インバウンドグリーンツーリズムへ
- ・インバウンドグリーンツーリズムの推進をミッションとした地域おこし協力隊の採用
- ・デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生タイプ）を活用した対策

② 観光客誘致の具体的な取組み

- ・グリーンツーリズム推進事業
- ・教育旅行推進事業
- ・国際観光宣伝、誘客促進事業
- ・台湾修学旅行誘致促進事業
- ・青少年国際交流事業
- ・リトリート推進事業
- ・人と地域を創生する観光誘客事業（令和7年～）

4. グリーンツーリズムの活動の効果

- ・地域の活気に繋がっている
- ・農山村の魅力の発見に繋がった
- ・地域の国際化、国際理解の進展に繋がっている
- ・仲間が増え、旧町村の垣根を超えたネットワークができた
- ・実際に受入、あるいは受入に関わった人自身の自信に繋がっている

5. 今後の課題

- ・人材不足、人材育成（少子高齢化が進んでおり、若者がいない）
- ・後継者不足

【視察研修（出張）の成果、市政への反映等】

※視察研修（出張）の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

①仙北市はグリーンツーリズム組織である『（一社）仙北市農山村体験推進協議会』を設立し、活動を一本化したことで体制が強化され、受入環境の整備や体験メニューの充実を図ることができた。また、地域限定の旅行業を取得したことで旅行業者としてワンストップサービスの体制が構築されたことが海外からの修学旅行（教育旅行）や国際交流団体の受入に繋がっていった。そのことが評価され、2016年度「ディスカバー農山漁村の宝」フレンドシップ賞受賞、2023年度「ディスカバー農山漁村の

宝」第10回記念賞受賞となった。ちなみに、仙北市の令和6年度農家民宿数は40軒、宿泊者数は18,066人（うち外国人4,000人）と毎年増加傾向にある。十日町市においても、代表的なグリーンツーリズムの取組として越後妻有田舎体験があり、グリーンツーリズム組織として越後妻有田舎体験推進協議会が設立されている。仙北市のように市役所・協議会・民間事業者が一体となって取り組むことが重要であり、それがグリーンツーリズムのさらなる活性化に繋がっていくと思う。

②仙北市はグリーンツーリズムを提供している宿泊施設が市内全域にあり、農家民宿からペンション、ロッジなど様々な形態がある。より多くの方に十日町市を訪れ、生活体験や地元の人々との交流を楽しんでいただけるように、まずは宿泊施設を増やしていく必要がある。

③近年の外国人旅行者は都会での買い物よりも日本の美しい文化や歴史を理解できるような体験を求めている傾向である。十日町市も仙北市に負けない魅力がたくさんあり、仙北市と比べると東京から近く、四季も豊かである。普段の生活では体験できない、十日町市ならではの外国人旅行者向けの体験メニューやプランの造成に取り組んでいただきたい。



② 【視察研修（出張）の目的】

当市と同様に、長い年月をかけた継続事業として、雪像づくりを中心とした、地域を中心とした冬のイベントをどのように運営しているのか、同じような課題などがあるのではないかと。

【市政との関連性】

雪国の地域住民が中心とした冬のイベントに行政としてどのように関わっているのか。

【視察研修（出張）の概要】

『田沢湖高原雪まつりについて』

日 時：10月9日（木）14：00～15：00

場 所：仙北市役所角館庁舎内会議室

対応者：仙北市観光文化スポーツ部 部 長
次 長
交流デザイン課 課 長
観光課 課長補佐

○合併して仙北市となる前の田沢湖町の時代から開催されていた「田沢湖雪まつり」の歴史を引き継ぎ、雪像の製作を中心とした花火の打ち上げや雪と遊ぶイベント、地域の食を活かしたコンテストなど、当市と同じように地域住民にとっての冬の楽しみであり、令和8年2月で53回目の開催となる歴史のある地域行事である。

○開催内容

令和8年21日（土）10：00～20：00

22日（日）10：00～15：00 開催予定

会場 たざわ湖スキー場

主な催し

- ・雪像コンテスト
- ・雪まつり花火
- ・紙風船上げ
- ・お祭り屋台
- ・汁・椀グランプリ
- ・雪中宝さがし
- ・そり大会 等

実行委員会形式

予算規模：約200万円、このうち約100万円が市の支援予算。

他は地域企業を中心とした寄付金。

実行委員会の体制

名誉会長：仙北市市長

実行委員長：観光協会長

その他委員として7団体の代表者。うち1団体が市の観光文化スポーツ部

このほかに民間や有識者、地区の代表者、秋田公立美術大学の生徒、市の観光課で形成された幹事会を形成し、ここが実行部隊となり実行委員会を運営している。

事務局は観光協会が担当しており市の職員も出向して事務局の任に当たっている。

○課題

・人口減少

仙北市も少子高齢化、人口減少の課題を抱えており、雪像作り団体の減少や、寄付金の減少といった雪まつりへの影響も大きく、毎年課題として挙げられている。

○課題解決に向けた対策

雪像作り団体の確保は、秋田公立美術大学のものづくり専攻科の生徒や、同大学の美術教育センターの職員などに声をかけ、若い方の協力も得られるようになってきている。

また、紙風船上げを地域の保育園や支援学校、病院に協力していただき、スケジュールを組んで、18：00からは〇〇園、18：30からは〇〇園、19：00からは病院とそれぞれが自分たちで作った紙風船をステージ上で、紙風船上げを行っている。これは、地域の行事に地域の子どもたち全員が参加して、地域の伝統を伝えていくという意味が込められているとのこと。

また、実行委員会の幹事会の多くが、毎年メンバーが変わり、若い人たちを中心に意見を出し合い、雪まつりを作り上げていっているとのこと。実行委員会の若返りは比較的うまくいっているとのことであった。

【視察研修（出張）の成果、市政への反映等】

※視察研修（出張）の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

当市と同様に、平成の合併で3町村が合併し、この雪まつりは旧田沢湖町の冬のイベントですが、合併後すぐに一つとなった観光協会を事務局に置くことで、市全体でこの事業に市民とともに取り組んでいけているようでした。

また、実行委員会の入れ替えを短期的に行うことで、一度実行委員会に入った方が、実行委員会や幹事会を外れた後も、雪まつりに積極的に参加し、市民全体で作り上げている雪まつりであると感じました。

ただ、田沢湖高原雪まつりで変わらないことが、田沢湖高原雪まつりは、当初から旅館業界方々が中心に携わってきて、今もなお、旅館業界の方々の熱意が市民や、行政に伝わって継続出来ています。当市は織物業界や建設業界が熱意をもって発展させてきました。今も雪まつりに対する熱意はあるものの、中心となって取り組んでいる部分が減り、熱意の伝播がなされていないように思えます。熱意と経験を持った層をどんどんと実行委員会に取り込み、新しい意見と融合させて今後の十日町雪まつりを作り上げていかなければならないと感じました。

